第三者意見

鹿島建設の抱える最大の課題が「人」であることを意識的に取り上げて、自社及び業界が抱える問題の本質を分析した上で、具体的な施策に言及していることにより、将来に対する実行性と実効性の伴った明確なビジョンの提示として、ステークホルダーにとって信頼性の高い内容に仕上がっています。

特に震災復興事業においても、現地雇用、建設業生業化プロジェクトや再就職支援プログラムを展開することで、広く「人」の就業・定着・育成に貢献していることからも「人が財産～鹿島がサスティナブルであるために」というテーゼが単なる宣言ではなく、本気度が伝わってくるものと感じました。

Good Point

上記に加えて特筆すべきGood Pointは以下の通りです。

1. 昨年、建設業界の労務単価について意見を述べましたが、本年度は建設技能労働者の賃金問題と社会保険未加入対策の推進、重層構造の改善を「相互に関連した問題」として捉え、悪循環のシナリオを把握して「仕組み」からアプローチを開始していること。
2. 重層構造の改善に向けて、モデル会社を選定して、実際に現場における2次下請以内の体制作りを試行しようとしていること。
3. 震災によって発生したコンクリートがれきを用いて、CSG工法による日本初の防潮堤を実現したこと。
4. 従来から鹿島では「コンクリートの品質」にこだわってきたが、コンクリート表層品質を簡単且つ定量的に評価する手法開発や、低コストで且つ有効な「美シール工法」を開発して技術的に確立していること。
5. リサイクル資材を生かした屋上緑化技術である「屋上はらっぱ」を産学協同で開発・展開して、廃材の資源循環に寄与していること。
6. 昨年、障がい者雇用の促進に関して改善課題として意見を述べましたが、法定雇用率に関する実態としての雇用者数や比率の数値・データを示すように改善している点。

改善課題及び推奨事項

経営監視機能の客観性・中立性を確保するために監査制度を導入していますが、この監査の枠組みに、『CSR経営の実践』という観点での意見・監査をより積極的に取り入れることが大切です。SRI投資指標やISO26000で社会から求められる視点を監査制度に導入することで、①経営理念の実現と、②「社会の発展・持続可能性が、鹿島グループの持続可能性と同軸にある」とする考え方をより積極的に実現するものとなるでしょう。

CSR経営の実践と、充実した情報開示という観点も踏まえて、以下の点について取組みの強化と検討を期待します。

1. マンション工事における品質不具合に対して、①早期の計画、②品質チェック体制の強化、③活発なコミュニケーションを対策として取り上げていますが、施工管理に対して「プロセスFMEA」のようなリスクアセスメントの手法の導入などを検討する。
2. 死亡災害を発生させてしまった点について。最も重篤な災害であるだけに、発生経緯・原因と再発防止策のポイントについて、産業界への安全に対する情報共有の観点からも開示を進める。
3. 社外取締役の義務化が論じられる現在、ガバナンスにおける客観性を確保する上で有効とされる社外取締役の「あり方及び設置に関する鹿島建設としての方針・意向」について取扱うことが妥当です。社外取締役はステークホルダーにとって興味の高い要件であるだけに、証券取引所の定める「コーポレートガバナンス報告書」の中にも記載事項・報告事項とされていることを鑑みると、検討の余地があります。
4. 政府の経済財政諮問会議では、「2%の経済成長が必要であるが、そのための労働者が足りない」として、外国人労働力の必要性を唱える声が高まり、活用を本腰で考える方向となっています。また、移民受け入れの議論も持ち上がっていると共に、技能労働者の滞在期間を延長することも検討されています。
40周年を迎えた鹿島事業協同組合の記事では、多様な取組みが国内で展開されていることがよく伝わるものとなっています。一方、海外人材の育成による少子高齢化の対策（人材確保と育成）については特に取り上げられていません。今後の人材戦略で避けることが出来ない案件になると考えられることから、海外グループ各社とのシナジー効果によるネットワークを活用して、この点を強化することを推奨します。

溝呂木 敦
-Atsushi Mizoroki-

ソブリン・コンサルティング株式会社　代表取締役
高砂香料工業株式会社　安全統括本部　顧問
インプレッション株式会社　取締役
Certification International(UK) Limited
- Executive Corporate Adviser
CFE 公認不正検査士　CCSA 内部統制評価指導士

リスクマネジメントベースの企業経営に関する専門家として、事業運営、製品開発、製造、リソース管理，サービス，コンプライアンス、環境対策、IT ／セキュリティ対策、エンパワーメント、倫理行動、法務、薬事、国際事業などの分野に“システム”（＝仕組み）を導入することで、成長促進とCSRの実現に向けて多くの企業をサポートしている。

第三者意見を受けて

広報室長　原田 健

溝呂木先生、貴重なご意見をありがとうございます。今年度は統合報告の考え方も採り入れ、財務情報を盛り込むなど構成の見直しを行いました。先生に第三者意見をご執筆いただいて今年で3年目となりますが、ご指摘いただいた事項が社内の刺激となり、当社がＣＳＲ活動と情報開示の両面で少しでも前進して行けたらと考えています。

ＣＳＲが企業に求める範囲は非常に広く、その達成は容易ではありませんが、自らがサスティナブルであるために、ご評価いただいた部分を更に伸ばしつつ、改善課題や推奨事項として挙げていただいた項目については、関係各部署との対話を重ねながら次の段階に歩を進め、次年度以降のレポートでご確認いただけるよう努めてまいりたいと思います。

主な発信媒体

		施主・発注者	株主・投資家	従業員	協力会社	地域社会・現場のご近隣
ウェブサイト		○	○	○	○	○
冊子	コーポレートレポート	○	○	○	○	○
	月刊KAJIMA	○		○		
	会社案内	○	○	○		○
	技術パンフレット	○				
映像	会社案内	○	○	○		○
	技術紹介・工事記録	○		○	○	
その他			営業のご報告	イントラネット	いしずえ	現場ウェブサイト・ミニコミ誌

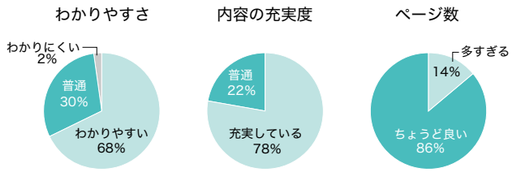
発刊から54年以上になる社内報兼PR誌の「月刊KAJIMA」。左は2014年6月号の特集記事

ウェブサイト

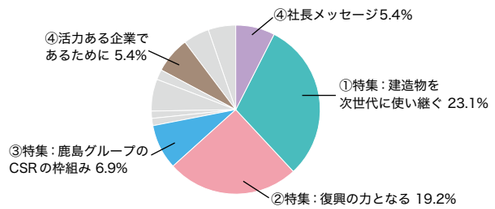
「鹿島CSR報告書2013」のアンケート結果

アンケートに記入いただいた皆さま、ありがとうございました。アンケート結果を分析し、ご意見を踏まえて、本レポートの企画・制作を行いました。

■ Q1　報告書全体の印象をお聞かせください



■ Q2　関心を持たれた項目はどれですか？



報告書に対するご意見・ご感想

- 全体としての業績について多少は説明が必要と感じたが、アンケート内の「説明が不十分」の項目に記載場所がなく回答できなかった。事業規模が判らないとマテリアルフロー等がどの程度インパクトがあるものなのか判断がつかない。
- ステークホルダーとして、品質を優先目標でのべる項目が必要だと感じる。
- 建設業界は、社会的使命や日々の事業活動について、それほど積極的には社会に対して発信していないというイメージだった。しかし、誠実な情報発信は、企業への信頼の基本であるという意識で、多様なステークホルダーや地域社会などとのコミュニケーションを図ろうとしていることが分かった。

鹿島に対する期待とご要望

- トリプルZero2050は、新聞報道時から関心が高く、御社の環境に対する長期ビジョンが明確で、業界をリードして欲しいと思う。
- 現場見学会も普段目にすることができないものを見学でき、ゼネコンの仕事の重要性を理解してもらうための良い取組みだと思うので、可能な限り開催してもらいたい。
- 建設業に日本を活性化してもらいたいので、「協力会社とともに」歩む活動に期待している。

編集後記　「2012年版ＣＳＲ報告書」以来2年ぶりに本誌の編集に復帰しました。ありのままの姿の鹿島を読者の皆さまにご理解いただくにはどうするべきか…を常に念頭において編集を進めてきました。言葉づかい一つ、写真1枚もおろそかにせずに吟味し、試行錯誤を繰り返しながら誌面を作り上げました。観音開きのページも設けて見せ方に工夫も施しています。本日が入稿日。最後の文字校正をしながら執筆した編集後記となりました。（広報室 金子透）

2年ほど前から、冊子や鹿島としてのCSR情報の発信を中長期で考え直さねばならないと思いながら、CSR報告書を制作してきました。2014年度からは「コーポレートレポート」として、新たなステップを踏みました。鹿島が今向き合わねばならない課題やこれから目指す姿をお伝えし、読者の皆さんのご意見を賜りたいと思っています。あと10年、20年した時に、あの時が転換点だったと思える、夢のある業界になるように。（広報室 内田富貴子）

®は鹿島の登録商標です。